

# 公開実用平成 2—29830

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平2—29830

⑬ Int. Cl.<sup>9</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)2月26日

B 60 K 20/02  
F 16 J 15/52  
G 05 G 25/04

B 8108—3D  
A 7369—3J  
A 8513—3J

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 チェンジレバーブーツの取付構造

⑯ 実 願 昭63—107959

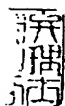
⑰ 出 願 昭63(1988)8月17日

⑱ 考 案 者 杉 山 晃 太 郎 静岡県浜松市小沢渡町1114—2

⑲ 考 案 者 古 川 正 明 静岡県浜松市入野町16124—1—406号

⑳ 出 願 人 鈴木自動車工業株式会 静岡県浜名郡可美村高塚300番地  
社

㉑ 代 理 人 弁理士 奥 山 尚 男 外2名



## 明 細 書

### 1. 考案の名称

チェンジレバーブーツの取付構造

### 2. 実用新案登録請求の範囲

コンソールパネルにチェンジレバーを通す孔を設け、該孔の周縁部にチェンジレバーブーツを止着してチェンジレバーの基部を覆うようにしたチェンジレバーブーツの取付構造において、該チェンジレバーブーツに、その下端から内側に延出するフランジ部を設け、一方、外周面に形成した段部と下端部に形成した係止部とを備えたりテーナリングを設け、該リテーナリングを上記コンソールパネルの孔に嵌入してその係止部を該孔の周縁に係止し、上記リテーナリングの段部によってチェンジレバーのフランジ部をコンソールパネルに圧着させたことを特徴とするチェンジレバーブーツの取付構造。

### 3. 考案の詳細な説明

#### a. 産業上の利用分野

本考案はチェンジレバーブーツの取付構造の改

良に関する。

b. 従来の技術

第 7 図に示すように、コンソールパネル a にチェンジレバーブーツ b を止着する方法については、すでに種々のものが提案されている。第 4 図はその一例を示す断面図であって、チェンジレバーブーツ b の下端部に設けた係止部 c を、コンソールパネル a に突設した周壁 d の上端部 e に掛止することにより、チェンジレバーブーツ b をコンソールパネル a に取付けたものである。

また第 5 図に示すように、コンソールパネル a の裏側にピン部 f を突設し、該部 f にチェンジレバーブーツ b の端縁を突き刺し、その先端部に割ピン g を装着するようにしたものも、提案されている。

さらに第 6 図に示すように、ボルト b とナット i を用いて、チェンジレバーブーツ b を直接ボデー j に取付ける構造のものもある。

c. 考案が解決しようとする課題

しかし、第 4 図に示す構造によると、チェンジ

レバーブーツ b はその弾性力によってコンソールパネル a の周壁 d に止着してあるため、このブーツ b がコンソールパネル a から外れ易いという問題があった。

一方、第 5 図と第 6 図に示す構造は、いずれもチェンジレバーブーツ b の組付けの際、コンソールパネル a の裏側に手を入れて作業を行なう必要があり、作業性が極めて悪いという問題があった。

#### d. 課題を解決するための手段

本考案は上記問題点に鑑みてなされたもので、その目的とするところは、組付け作業が容易でありながら、チェンジレバーブーツをコンソールパネルから外れにくくすることができるチェンジレバーブーツの取付構造を提供することにある、その要旨は、コンソールパネルにチェンジレバーを通す孔を設け、該孔の周縁部にチェンジレバーブーツを止着してチェンジレバーの基部を覆うようにしたチェンジレバーブーツの取付構造において、該チェンジレバーブーツに、その下端から内側に延出するフランジ部を設け、一方、外周面に形成

した段部と下端部に形成した係止部とを備えたりテーナリングを設け、該リテーナリングを上記コンソールパネルの孔に嵌入してその係止部を該孔の周縁に係止し、上記リテーナリングの段部によってチェンジレバーのフランジ部をコンソールパネルに圧着させたことを特徴とするチェンジレバーブーツの取付構造にある。

以下、本考案の実施例を、添付図面を参照しながら詳細に説明する。

第1図において、1はコンソールパネル、2はチェンジレバーブーツ、3はリテーナリングである。コンソールパネル1には、チェンジレバー4を通す孔5が設けてあり、また該孔5の周囲には、段部6が設けてある。チェンジレバーブーツ2には、その下端から内側に延びるフランジ部7が設けてある。一方、リテーナリング3は、その周壁に形成した段部8と、下端部外周面に形成した係止部9とを備えている。そして、リテーナリング3をチェンジレバーブーツ2のなかに入れてその段部8をチェンジレバーブーツ2のフランジ部7

に当接し、該リング 3 を上記コンソールパネル 1 の孔 5 に嵌入し、その係止部 9 を該孔 5 の周縁に係合させることにより、チェンジレバーブーツ 2 をコンソールパネル 1 に固定してある。

本実施例はこのように構成してあるので、チェンジレバーブーツ 2 のフランジ部 7 がリテーナリング 3 の段部 8 とコンソールパネル 1 の段部 6 の間に挟着されるとともに、リテーナリング 3 はその係止部 9 によってコンソールパネル 1 に係止されることとなるから、チェンジレバーブーツ 2 がコンソールパネル 1 から外れにくくなる。

なお、リテーナリング 3 の周壁には、第 2 図に示すように、段面波状の段部 10 を設け、該段部にチェンジレバーブーツ 2 のフランジ部 7 を係合させるようにしてもよい。このようにすると、チェンジレバーブーツ 2 がコンソールパネル 1 から外れにくくなる。また、同図に示すようにリテーナリング 3 の下端部に適宜切欠部 11 を設け、コンソールパネル 1 の孔 5 への嵌入を容易に行なえるようにしておくのが、好ましい。

あるいは、第3図に示すようにリテーナリング3の周壁の一部を切り欠くとともに、その周壁の内側に外方に付勢するスプリング12を配設するようにしてもよい。このようにすると、チェンジレバーブーツ2への装着とコンソールパネル1の孔5への嵌入を極めて容易に行なえることとなる。

e. 考案の効果

本考案によれば、チェンジレバーブーツのフランジ部がリテーナリングの段部によってコンソールパネルに圧着されるとともに、リテーナリングがコンソールパネルに係止されることとなるので、チェンジレバーブーツをコンソールパネルから極めて外れにくくすることができ、さらにまた、チェンジレバーブーツの組付けにあっては、コンソールパネルの孔にリテーナリングを嵌入するだけでよいので、作業性の向上をも図ることができる。

4. 図面の簡単な説明

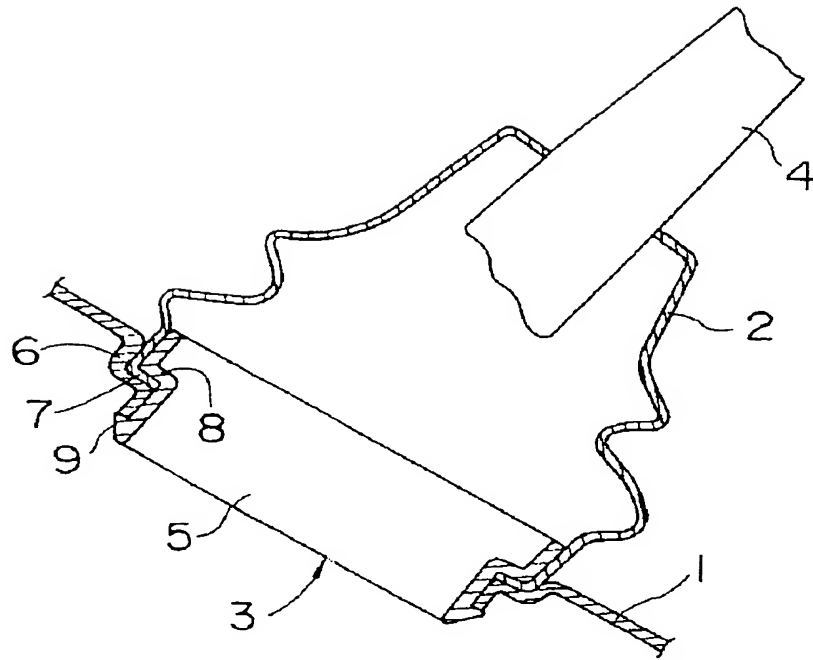
第1図は本考案に係るチェンジレバーの取付構造の一実施例を示す縦断面図、第2図及び第3図

はそれぞれ第 1 図に示したリテーナリングの変形例を示す斜視図、第 4 図は第 1 図と対応する従来例を示す図、第 5 図及び第 6 図はそれぞれ第 1 図と対応する他の従来例を示す図であって、チェンジレバーブーツの固定個所を拡大して示すもの、第 7 図は自動車のコンソールパネルを示す斜視図である。

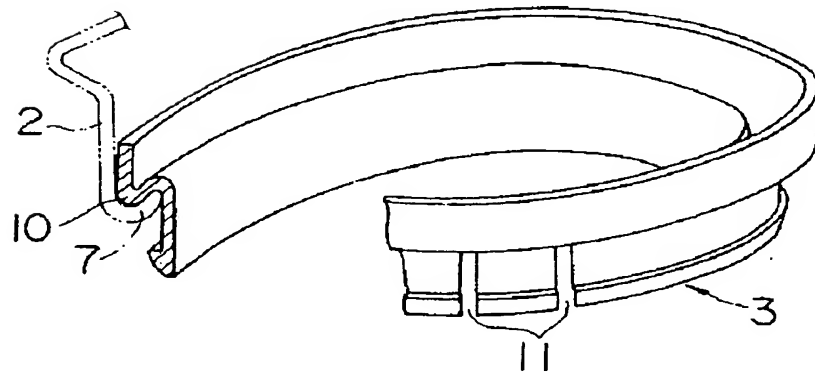
- 1 … コンソールパネル、
- 2 … チェンジレバーブーツ、
- 3 … リテーナリング、
- 4 … チェンジレバー、
- 5 … コンソールパネルの孔、
- 7 … チェンジレバーブーツのフランジ部、
- 8 … リテーナリングの段部、
- 9 … リテーナリングの係止部。



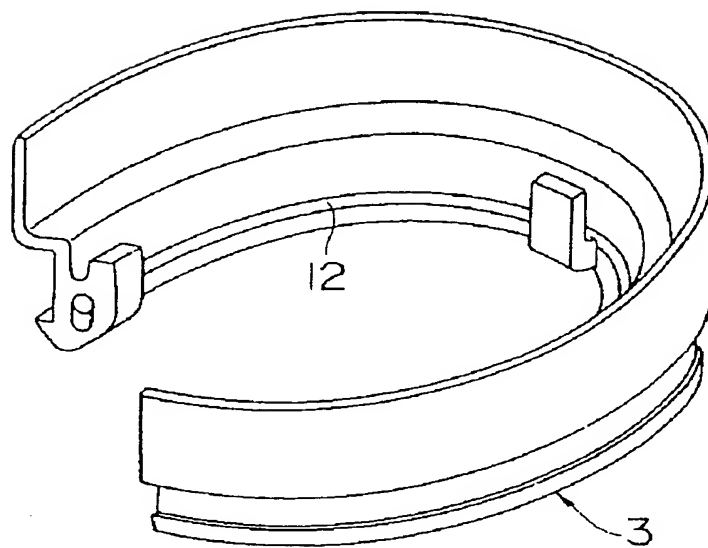
第 1 図



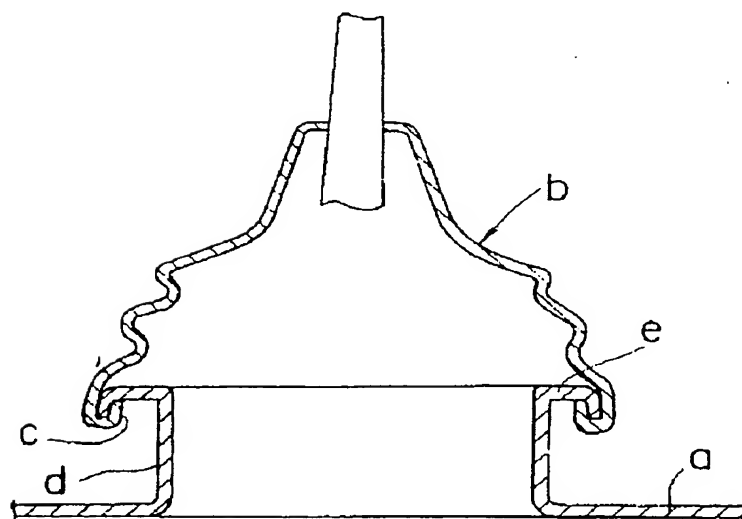
第 2 図



第 3 図



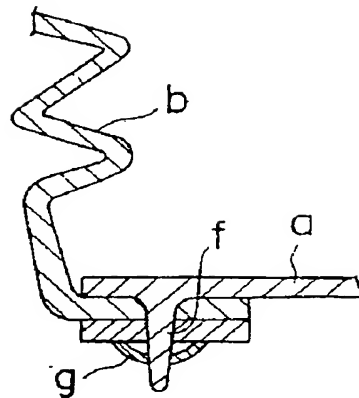
第 4 図



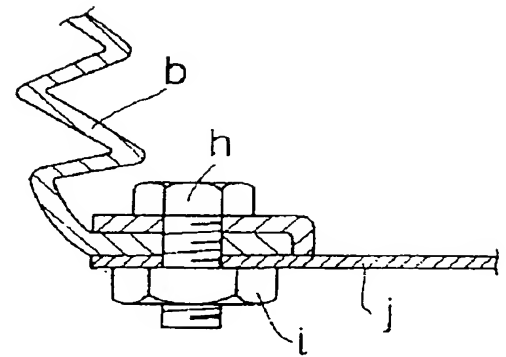
329

実開 2 - 29830

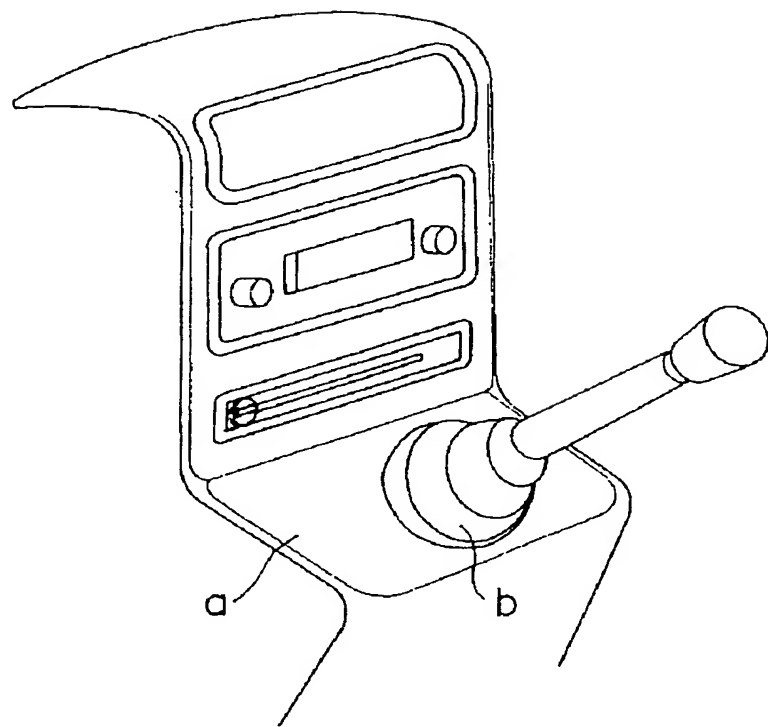
第 5 図



第 6 図



第 7 図



330

実用 2-2983